

大分立大道小学校 学力向上プラン 1 (8月)

学校教育 目標	豊かな心と知性にあふれる、たくましく生きる児童の育成 ― 自立と協働 ―
育成を目指す 資質・能力	表現力(説明力)の育成

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 〈5年…国語、算数、理科〉国語・理科で下回る領域があったものの、概ね目標値を上回っている。国語は、連用修飾語の理解、算数は身近にあるもののおよその面積、理科は骨のはたらきについて、課題が見られた。 〈6年…国算〉算数「変化と関係」の領域では下回ったものの、他は県平均、全国平均を上回っている。国語は、引用して自分の考えが伝わるように工夫する問題、算数は二次元の表から条件に合う数の読取について、課題が見られた。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○基礎的な内容は定着しているが、個人差が大きい。 ○文章問題を丁寧に正確に読み取る力が弱い。考える上でヒントになる言葉や図を見逃していたり、問題をよく読まず理解せずに絵のまま捉えてしまったりする児童が多い傾向がある。 ○言語事項が身に付いていない児童が多い。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ○友だちの発言の内容を繰り返し言わせたり、要約させたりする活動を授業に取り入れているが、大事な事を落とさず聞くことができない。 ○長文問題について、授業の中で大事なところに印を付けさせたり、図に表せるよう指導しているが、何を問われているのかを正確に捉えることができない。	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ○各教科で、「分かった」「発表できた」「説明できた」と児童が納得する授業構成の実践 ○授業者による、児童の考えがふくらむような分かりやすい説明、児童はしっかり聞く指導の徹底 ○課題は青枠、めあては白枠、まとめは赤枠で統一し、学年が上がっても見やすい板書づくりの実践 ○授業の最後にキーワードを確認し、キーワードを入れて児童がまとめる。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○家庭学習での日記や条件作文による「表現力」の育成 ○児童の学力定着状況をしっかり把握し、定着が十分でない児童への「放課後タイム」での個別指導の継続 ○人間関係づくりプログラム「ほっとはーとおおみち」の活動を通して、児童同士が積極的に対話する場面づくり。授業の中で、相手に自分の気持ちを伝える表現力の育成。	

学力に関する達成指標

○国語と算数の単元テストにおいて、A判定(80点以上)の児童を85%以上にし、C判定(60点未満)の児童を7%未満にする。

	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
今後の 具体的 な取組	〈授業改善のテーマ・重点〉 自ら課題を見付け、仲間と協働して解決に向かう児童の育成 ～課題設定の場面における「やってみたい」を引きだす工夫を通して～	
	〈取組内容〉 自分の考えをもち、伝え合う活動を充実させた授業づくり ①学びの成果の実感 ②伝える力の育成 ③最後まで諦めず解決しようとする態度の育成 ④個に応じた補充学習の充実	〈家庭・地域の取組内容〉 家庭と学校が連携して取り組む「児童の良い習慣づくり」 ①家庭学習の習慣化 ②「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化
	〈取組指標〉 ①授業の中でペアやグループワークに1日1回以上取り組ませ、全体での発表では、皆に意見が伝わるように指導する。 ②ドリルや習熟問題の後、単元末テストを行い、やり直しに必ず取り組ませる。 ③15分間の放課後タイムについて懇談会や通信で知らせ、学年会で取り組む内容を話し合う。 ④単元ごとにICT機器を活用した話し合い活動を行う。	〈家庭・地域の取組指標〉 ①「学習のきまり」を基に家庭学習の方法を確かめ、毎日の家庭学習の声かけを行う。 ②学年通信を必ず読み、学習予定を確認する。
	〈検証指標〉 ①教職員アンケートにおいて「授業でのペア・グループ学習を工夫したり、一人1台端末を活用した学び合いの場を設けたりすることで、児童に「授業がよく分かった」と充足感をあじわわせることができた80%以上 ②児童アンケートにおいて「学校の授業で『分かる』『できる』と感ずることができた」80%以上 ③児童アンケートにおいて「放課後タイム等で分からなかったところやできなかったところが『分かる』『できる』ようになった」80%以上 ④保護者アンケートにおいて「放課後タイムの実施日時が分かり、授業や家庭学習で理解不十分な内容理解に役立っていると思う」80%以上	〈家庭・地域の検証指標〉 ①保護者アンケートにおいて「王子中学校区共通の『学習のきまり』(学年×10+10分)を守ることができている」80%以上 ②保護者アンケートにおいて「こどもは早寝・早起き・朝ごはん・朝トイレに気を付け、生活習慣が定着している」80%以上
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ○放課後15分の「放課後タイム」での個別指導で習熟に応じた指導の実践を今後も継続。2学期からは、一人1台端末のドリルパークを活用することを提案し、応用問題・既習問題などを入れ、自分で問題を選択できるようにする。	